

自然環境保護とゆとり空間づくりを旗印に

由布院温泉 由布院玉の湯 代表取締役会長 溝口 薫平

●美しい「由布岳」の麓にひろがる由布院

「豊後富士」と称される美しい由布岳の麓にひろがる田園観光地、それが由布院です。豊かな温泉以外には、とりたてて何も無い小さな町に、今も年間 380 万人近い観光客が訪れてくださいます。その秘訣は、と事あるごとに問われますが、「何も無い豊かさを、町内外のたくさんの方々と必死に守ってきました」そうお答えするのが常です。何を始めるにも資金が無かった、観光資源にも乏しかった、まったく知名度が無く別府の奥と説明するしかなかった。結果的には、徹底した「無さ」が功を奏しました。



大川沿い（4月）桜と菜の花が同時に咲く最も美しい季節です。

昭和50年の大分県中部直下型地震の風評を覆そうと始めた「辻馬車」「湯布院映画祭」「ゆふいん音楽祭」「牛喰い絶叫大会」等のような地域密着イベントは、今でこそ各地で盛り上がりを見せていますが、由布院が早期に創造できた源には、客寄せというよりも情報発信への、ほとぼしる情熱が有りました。資金が無いなら我々の手づくりでやるしかない、皆で知恵と工夫を搾り出しながら小さくスタートしました。意外なことに、演奏家、映画監督、俳優、著名な学者等、由布院の志に賛同して集まってくださる方々と地元の我々との距離が、わずかな交流時間の中でほとんど無くなってゆきました。小さな規模だから出来たのです。



辻馬車開き（3月1日）



第36回 牛喰い絶叫大会

イベントを通じて定着したアットホームなおもてなしは、由布院スタイルとして、各界の方々に懐かしさを感じていただいております。「お帰りなさい」「ただいま」そんな場面にあちこちで出くわすのです。そこには、変わらない良さを求める方と、変わらない良さを守りたい私どもの一致した思いがあります。

守りたいものは、自然環境と緑に守られた空間のゆとりです。昭和46年に町の仲間と訪れたドイツの伝統的保養温泉地バーデンバイラーで出会ったホテルのオーナー、グラテボルさんから受けた衝撃が、この町のその後の半世紀を決定づけました。「町にとって大事なものは静けさと緑と空間」という言葉に勇気付けられました。当時の由布院そのものだったからです。しかし、それを守るための苦労も後に厭というほど味わうことになりました。何とか守ってきたこの町の願いは、幸いにも次の世代に引き継がれており、2008年には、「湯の坪街道周辺地区景観計画・景観協定」が、住民による委員会によって組み立てられ、行政の後押しを受けて策定されました。町外資本の出店は、町の活気づくりに寄与してくれますが、配慮のない看板も目立ち、住民の景観への思いをルール化する必要に迫られていたのです。この自然環境を、皆が心がけて植樹することで形成されたゆとり空間を守ることが、我々の変わらぬ百年計画なのです。



昔ながら美しい里の風景

●日観連由布院連絡会からの報告

今でこそ行ってみたい観光地の一つに挙げられるようになった由布院温泉ですが、もともとは、九州の小さな農村、過疎の山里でした。

昭和 30 年に湯平（ゆのひら）温泉がある湯平村と合併して湯布院町となりました。36 歳の青年医師が初代町長となり、地域づくりに取り組もうとする旅館の若手を側面から支えてくださいました。昭和 34 年に国民保養温泉地の指定を受け、その当時多くの温泉地が進めていた歓楽街づくり、男性客を中心とした大型団体収容の施設づくりとは逆の、小さな保養地としての町づくりを目指したところから、由布院は出発したのです。

その中であって中心的役割を果たしたのが国鉄当時の駅長さんも太鼓判を押した、通称「二十日会」、日観連に属する由布院の小さな宿の経営者グループでした。毎月二十日に集まって食事を共にして、各自の旅館施設を公開、料理や経営の情報交換をしました。

また隔年で国内外に研修旅行に行くことにより、お互いの質を高め、信頼関係を深めてゆきました。

こうした単純な交流活動が 40 数年も続いていることを、外の方たちは不思議がられます。自主的に生まれた二十日会で語られた話題が、町の様々な企画や行事にも反映される確かな力となっています。

現在、大分県内の日観連会員は 99 軒、そのうち由布院地区 25 軒、湯平地区 3 軒と僅かな数ですが、その団結力、重ねた研修旅行の回数は相当なものです。

旅館のあり方、目指すもの、次世代の育成をテーマに、メンバーも幅広くしており、オブザーバーに行政担当者、駅長、観光協会長、商工会長も加わっていただき、旅館だけの閉ざされた会にならぬよう気を配っております。こうした風土を時間をかけて育てることにより、旅館と農家や商店、料理人と農業者との連携が深まりました。このような地域一体となった動きが町内の様々なイベントを盛り上げるおもてなし料理となり、お客様と共に盛り上がる楽しさが、旅館、町のリピーター増加に繋がっています。

由布院の宿泊料金の幅は広く、様々な旅行予算にお応えできますが、料金に拘わらず、いかに快適性を向上できるかを、力を合わせて追求してきたのが、由布院日観連連絡会の歩みです。

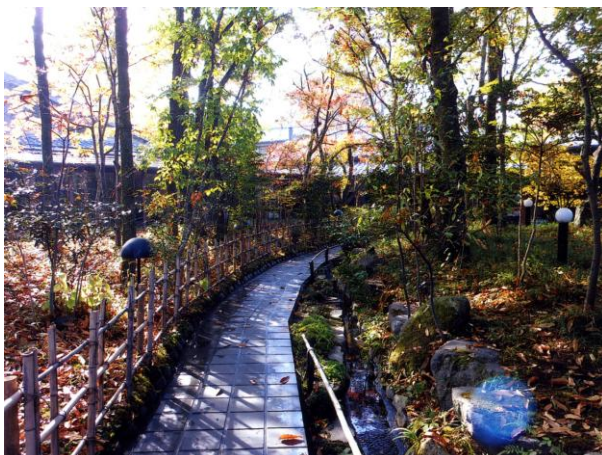




人が集中する湯の坪街道。景観保全に力を入れています。



金鱗湖



大分県 由布院温泉

由布院玉の湯

〒879-5197

大分県由布市湯布院町川上2731-1

TEL: 0977-84-2158